

# 第12回 国境マラソンIN対馬



## 国境の町を

### 1063名が駆け抜ける

7月6日、上対馬町の三宇田海水浴場をスタート・ゴールに、第12回国境マラソンIN対馬が開催されました。今大会には、韓国からの参加者145名を含む1063名がエントリー。下は小学生から上は79歳の高齢者まで幅広い世代のランナーが国境マラソン特有の潮風香る自然豊かなコースで競技を楽しみました。

大会の種目中最も過酷なハーフマラソンの部は、午前9時ちょうどにスタート。選手たちは、起伏の激しいコースと戦いながら、泉、豊、鰐浦、大浦、比田勝、古里、西泊の各集落を駆けゴールを目指しました。蒸し暑い天候に苦んでいたランナーたちでしたが、沿道の市民からの温かい声援に心えて、力強く走っていました。

また会場では、ハーフマラソンのスタートに続き、10km、5km、3km、2km、ウォーキングの各部門の競技が行われ、好記録をねらって真剣に走る選手のほか、仲間たちとの会話を楽しみながらゆっくりとしたペースで走る参加者や、中には奇抜な衣装を着てレースに挑む選手もいて、観客の笑いを誘っていました。走り終えたランナーたちには、大会事務局からの記録証が送られ、選手の皆さんは記録証を手に記念撮影を楽しんでいました。



給水を手伝うボランティアの皆さん



ユーモア賞を獲得した大仏さん



#### ハーフマラソン

一般男子(高校生以上39歳以下)の部  
優勝 岩見和明さん(21)



福岡市の九電工陸上部所属「コースは、先輩たちに聞いていた以上にタフでした。タイムはよくないですが、狙っていたので優勝できてうれしいです」**タイム1時間10分40秒**

#### ハーフマラソン

一般女子(高校生以上)の部  
優勝 イ・ミンジュさん(39)



3月に韓国で行われたKN環境マラソンの優勝者で、招待選手として出場。「今日は楽しみながら走れた。私は坂に強いので有利だったと思います。満足しています」

**タイム1時間34分40秒**

# 大会結果

(各種目1位のみ)

男子

2 km 小学4年 根ノ聡司 (北部小) 7分21秒 小学5年 日高綾哉 (久田小) 7分40秒 小学6年 三浦健太 (久田小) 7分10秒

3 km 中学生 宮原博佳 (豊中) 10分17秒 一般 (高校生以上) 松尾英晴 (熊本県) 10分55秒

5 km 一般 (高校生以上) 39歳以下 舟倉大亮 (対馬) 17分23秒 一般 (40歳以上) 枝見学 (対馬) 18分26秒  
10 km 一般 (高校生以上) 39歳以下 阿比留勇次 (対馬) 35分19秒 一般 (40歳以上) 川瀬和幸 (茨城県) 37分10秒

ハーフ 一般 (高校生以上) 39歳以下 岩見和明 (九電工) 1時間10分40秒 40歳代 十川進 (福岡県) 1時間20分36秒 50歳以上 内山徳博 (対馬) 1時間23分25秒

女子

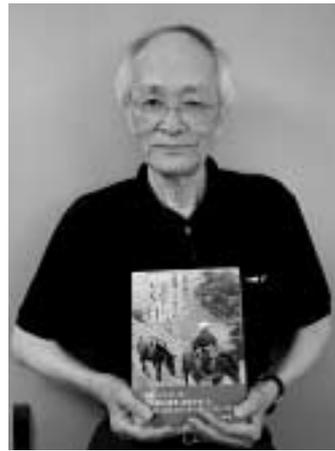
2 km 小学4年 山瀬未来 (塩浦JAC) 8分6秒 小学5年 佐伯麻美 (久原小) 7分23秒 小学6年 松原由希 (久田小) 7分25秒

3 km 中学生 松島奈央 (大船越中) 11分7秒 一般 (高校生以上) 阿比留優 (対馬高校) 10分59秒

5 km 一般 (高校生以上) 39歳以下 大賀ちよこ (福岡県) 24分23秒 一般 (40歳以上) 橋本紀江 (山口県) 24分00秒  
10 km 一般 (高校生以上) 東幸恵 (那珂川RC) 51分01秒

ハーフ 一般 (高校生以上) イ・ミンジユ (韓国) 1時間34分40秒  
ウォーキング男女 (中学生以上) 井川鎮 (比田勝中) 52分28秒

約50年前の農村風景を収めた  
写真集「対馬」を50冊寄贈



元農業改良普及員の  
月川雅夫さん

昭和30年から33年にかけて、農業改良普及員として対馬に勤務していた月川雅夫さん(80)が、当時撮影した農村の風景を写真集「対馬 昭和30年代初めの暮らし」(B5版160頁)として自费出版し、対馬市へ50冊寄贈しました。月川さんは、今から約50年前に下県郡佐須村へ赴任し、仕事の傍ら趣味だった写真撮影を行い、当時の農村の姿を写真に収めました。写真集には、農作業で対馬が活躍している様子や、村民総出で石屋根小屋に石を葺く様子、結婚式の様子など、当時の貴重な写真が約150枚掲載されています。

対馬の教育に役立ててもらいたいとの月川さんの意向で、寄贈された写真集は市内の小、中学校とつしま図書館に配布する予定です。

なお、個人的に写真集の購入(1冊二千元)を希望される方は、次まで問い合わせください。

対馬の自然と文化を守る会  
0920(52)3816

## 住宅防火モデル地区に 上県町佐須奈地区を指定



7月1日、対馬市消防本部は住宅火災による死者減少を目指し、上県町の佐須奈地区(日光博総区長、454世帯、1016名)を住宅防火モデル地区に指定しました。市内では美津島町雑知の「上の町第二」地区に続き2ヶ所目の指定で期間は2年間。同地区では消防署、消防団が連携・協力して防火教室・消火訓練等や、住宅用防災機器等の普及促進など住宅防火対策へ向けた事業が重点的に実施されます。

佐須奈ふるさとセンターで開催された指定書交付式で日光博総区長は、「この運動を契機に、地区を挙げて住宅防火対策に取り組みます」と挨拶。また、佐須奈保育所幼年消防クラブの子どもたちが、「ぼくたちがわたしたち、ぜったい火あそびしません」と大きな声で防火宣誓を行いました。